



慶應義塾大学ビジネス・スクール

妹が夫に暴力を振るわれていることで相談に来た女性

主訴：妹の夫が家庭で暴力をふるい、精神的・身体的に傷つけられている。妹を救ってやりたいがどうしたらよいか分からぬ。

10

問題状況：ある技術系の会社に勤める女性（39歳）が、自分の妹が夫に家庭で暴力をふるわれていると訴えて来談。妹の夫は、この人（姉）と同じ会社の、同じ職場のエンジニア（44歳）。いつも顔を合わせている同僚である。この女性の妹（36歳）は、4年前にこの夫と結婚紹介会社を通じて見合い結婚をした。どちらも「適齢期」を過ぎていたので、「この辺で手を打とうかな」という感じで結婚したという。妹は、以前OLをやっていたが、結婚を機に退職。専業主婦をしながら近所の自動車販売ディーラーでパートをしている。結婚半年後に妊娠したが流産。流産したあたりから夫が暴力を振るうようになった。夫は、会社の仕事がうまくいかなかったり、会社で上役に注意されると、家に帰って来た後、妹に殴る蹴るの暴力をふるう。理由は些細なことで、お風呂に石鹼が入っていなかった、食事の用意が遅かったなど、である。機嫌のよいときは陽気に鼻歌など歌うが、機嫌が悪いと些細なことをあげつらって殴ったり蹴ったりしてくる。妹は、何度か誰かに相談しようと考えたが、相談したことが夫に分かると殴り殺されかねないという恐怖心から誰にも相談してこなかった。姉が、妹の家をひょっこり訪ねた時、部屋が散らかっている、妹の顔や手足に青あざがある、などの様子を発見。妹を問いただしたところ、日常的に夫に暴力をふるわれていることが分かった。

20

25

夫の性格：高専卒業後、ずっと同じ会社でエンジニアをやってきた。人前では、無口、実直、小心、自己主張しない、など「大人しくて、まじめな性格」と映っている。仕事は堅実。人づき合いが悪いが、エンジニアにはよくあるタイプである。若いときは仕事が忙しく、会社と寮とを往復して、ずっと夜9時、10時まで仕事をしてきた。時間的な余裕がなかったことと、はにかみ屋で、女性と交際する機会がほとんどなく40歳まで独身だった。

30

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールの渡辺直登教授が作成した。ケースに記載されている個人情報については、本人および関係者の尊厳と秘密を保護するため、当事者の了解のもと事実から逸脱しない程度に偽装されている。